

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

6 June

4日 「教員の資質向上に寄与する『大学と学校・教育委員会の協働』の実現」事業キックオフ・ミーティングを開催

9日 外部資金獲得者への学長表彰状の授与式を開催

21日 定例記者発表を開催

25日 公開シンポジウム「震災から学ぶエネルギー対策」を開催

27日 次世代型環境技術研究でベネッセと協定



本学とベネッセホールディングスは太陽エネルギーの利活用の高効率化を追求する次世代型環境技術研究について協定を締結した。安価で高性能な次世代型太陽電池の開発につながる研究に連携して取り組み、2013年度までの実用化を目指す。

7 July

6日 岡山大学七夕祭を開催

7日 ガーナの教育関係者が本学で研修を開始



ガーナ共和国の小学校教員ら教育省関係者12人が、本学教員の指導のもと理数科教育を学ぶ研修が始まった。独立行政法人国際協力機構(JICA)の国別研修(Country Focused Training Program)の一。期間は約2カ月。

7日 岡山大学 ECO ☆ ナイトを開催

13日 環境マネジメントについて学ぶ「サステイナブル・セミナー」を開催

7 August

13日 発掘成果展「農耕のはじまりを考える 考古学と自然科学の融合、津島岡大遺跡での実践」を開催



17日 池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップを開催

21日 定例記者発表を開催

23日 大阪で「卒業生フオーアツセミナー」を開催

29日 「第6回高校生・大学院生による研究紹介と交流の会」を開催

5・6日 オープンキャンパスを開催



津島、鹿田両地区で開き、高校生ら約1万3千人が足を運んだ。全11学部とマッチングプログラムコースが、それぞれプログラムを企画。高校生は研究室訪問や模擬授業などを通して、「岡大ライフ」を体験した。

8 September

10日 教職員の子どもたちを招いた「家族の日」イベントを開催



教職員と家族の計18組53人が参加。津島地区では、旧事務局庁舎でオリエンテーションの後、学長室で森田潔学長と名刺交換し、インタビュアーや記念撮影などを行った。鹿田地区では、腹腔鏡シミュレーターを使った胆のう切除手術に挑戦するなど、「医療現場」を体験した。家族の職場も訪れ、実際に仕事する姿を見学した。

17日 オルセン・ハーバード大学教授に名誉博士号を授与し、講演会を開催

細胞生物学者でハーバード大学医学部のビヨン・レイノールセン教授に本学の教育・研究への貢献が顕著な研究者を顕彰する「名誉博士」の称号を授与した。医学部生や地元高校生らが参加した「岡大医で実現、『もう一つのハーバード白熱教室』と題した講演会」もあり、参加者はオルセン教授と議論を深めた。



20日 「第2回集まれ！市民のエコライフ&テクノロジー」を開催

20日 経済学部で中国・中央財経大学経済学院、韓国・江原大学校経営大学と連携し、相互留学する「短期海外研修3カ国相互交流プログラム」を初めて実施

25日 理学部で「第1回国立台湾大学理学院と岡山大学理学部の国際ワークショップ」を開催

29日 文部科学省の磯田文雄・高等教育局長らが学内を視察

8 October

31日 全日本学生フォーミュラ大会に出場するレーシングカーを学内関係者らに披露



工学部の学生13人で構成する「岡山大学フォーミュラプロジェクト」は、「全日本学生フォーミュラ大会」(9月5〜9日・静岡県小笠山総合運動公園)に出場するレーシングカーをお披露目し、津島地区でデモ走行を行った。7回目の参加となる今回は、「加速・旋回性能の向上」をコンセプトにエンジンやサスペンションを改良した。

9 September

8日 新司法試験合格者発表

本学法科大学院は73人が受験し、過去最多の23人が合格した。合格率は前年比16・4ポイント増の31・5%で全国12位(全国合格率23・5%)だった。

研究・臨床成果

■大学院自然科学研究科(理)の中越英樹准教授(バイオサイエンス専攻)らのグループは、色認識に関わるオプシントタンパク質の発現制御機構を解明した。生物種を超えて保存された普遍的なメカニズムとして注目される。米雑誌セルに掲載。(6月・定例記者発表)

■大学院社会文化科学研究科(法)の中富公一教授(憲法学)は、憲法学的観点からいじめを定義した。憲法13条の保障する「個人として尊重される」権利を侵害し、相手の人格を否定しようとする行為とし、この定義によっていじめがなせつらいのかを明らかにした。憲法理論研究会叢書2011年版に掲載。(7月・定例記者発表)

■大学院環境学研究科の河村雄行教授(ナノ環境学)と東京工業大、お茶の水女子大、高エネルギー加速器研究機構の研究チームは、地震を起こさずに滑り続けるクリップ断層の要因である鉱物表面が、吸着水によって潤滑するメカニズムを世界で初めて解明した。米化学会誌オンライン版に掲載。(8月・臨時記者発表)